

河川事業 事業再評価(報告事項)

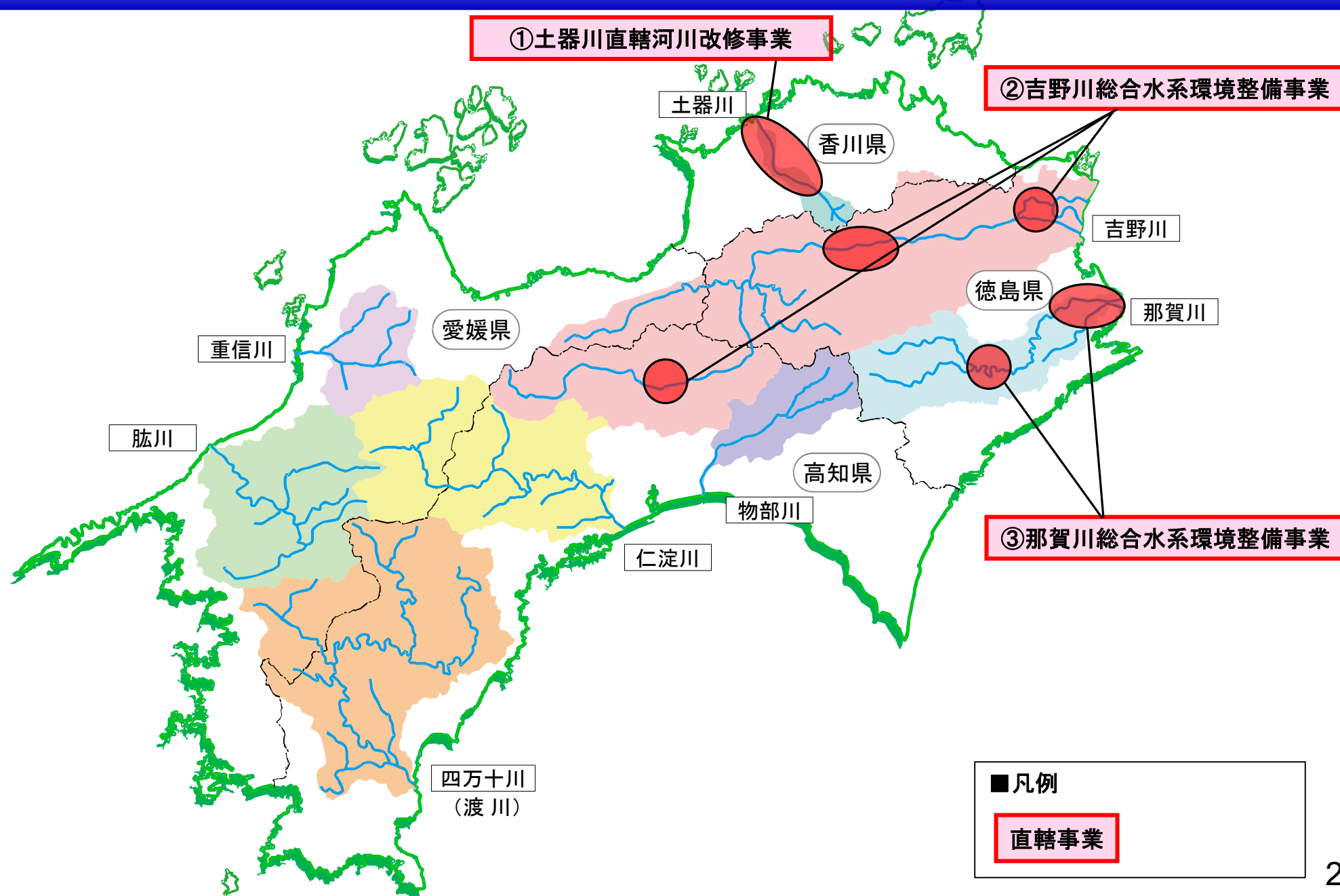
● 河川事業	再評価	3件
合 計		3件

令和7年12月5日



国土交通省 四国地方整備局

令和7年度 第3回事業評価監視委員会 河川事業位置図



流域学識者会議(河川整備計画の点検等)について



第8回 土器川流域学識者会議

令和7年11月10日（月）

①土器川直轄河川改修事業

再評価



令和7年度 第1回 吉野川学識者会議

令和7年11月13日（水）

②吉野川総合水系環境整備事業

再評価



第22回 那賀川学識者会議

令和7年11月10日（月）

③那賀川総合水系環境整備事業

再評価

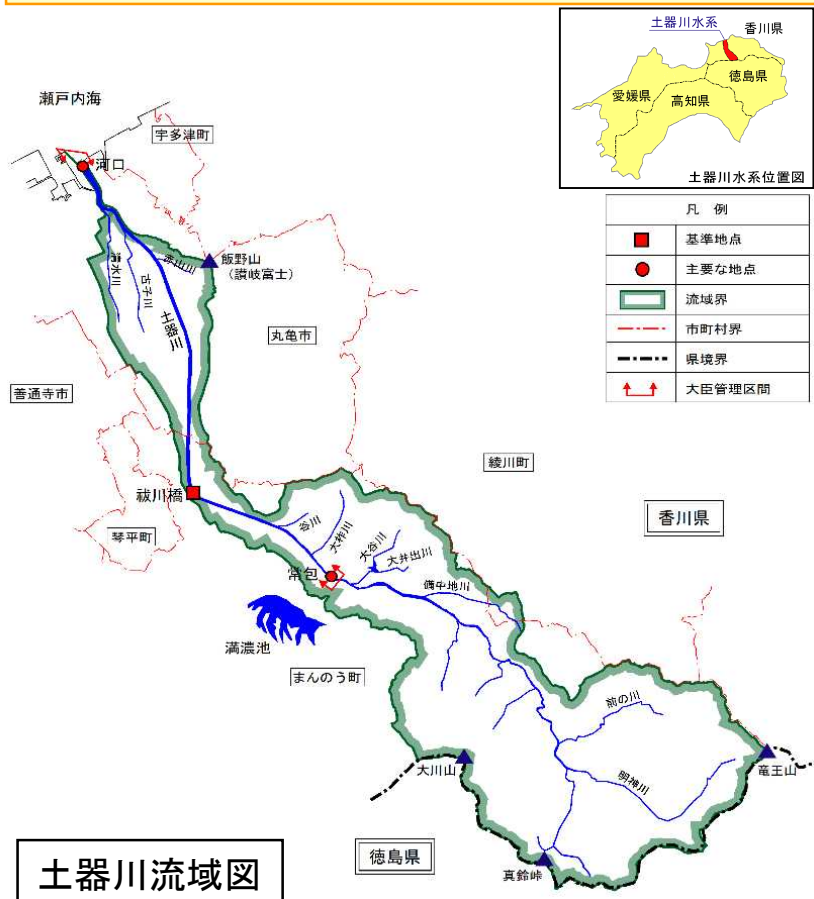
報告対象事業一覧(河川事業関係 対応方針(案))

事業名		前回評価	実施根拠 (実施理由)	全体事業費 (億円)	B/C	対応方針(案)
①	土器川直轄河川改修事業 四国地方整備局	R2 (再評価)	再評価実施後一定期間（5年間）が経過している事業	199	21.0	継続
②	吉野川総合水系環境整備事業 四国地方整備局	R2 (再評価)	社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業（水辺整備事業の新規追加）	142	3.5	継続
③	那賀川総合水系環境整備事業 四国地方整備局	R2 (再評価)	再評価実施後一定期間（5年間）が経過している事業	37	2.3	継続

①土器川直轄河川改修事業 流域の概要

【土器川流域の諸元】

・流域面積(集水面積)	: 127km ²
・幹川流路延長	: 33km(うち国管理区間18.9km)
・主な流域内市町村	: 丸亀市、まんのう町
・流域内人口	: 約3.9万人(平成22年度河川現況調査)
・想定氾濫危険区域内人口	: 約12.1万人(平成22年度河川現況調査)
・年平均降雨量	: 約1,200mm程度
・流域の主な産業	: 農業、製造業



過去の主な浸水被害(土器川流域)

洪水発生年月日	発生原因	被災橋地点 最大流量 (m ³ /s)	被害状況
昭和50年8月23日	台風第6号	約1,020	護岸崩壊23カ所、溢水氾濫2ha、乙井橋流失 浸水家屋:2,476戸(県下)
昭和54年9月30日	台風第16号	約800	護岸崩壊2カ所、局所洗掘1カ所
平成2年9月19日	台風第19号	約1,010	護岸崩壊8カ所、溢水氾濫2ha、野津床止護床工被災 支川氾濫:床上浸水79戸、床下浸水160戸
平成16年10月20日	台風第23号	約1,040	護岸崩壊2カ所、溢水氾濫0.2ha、満濃大橋橋脚周辺 洗掘被災 支川氾濫:床上浸水75戸、床下浸水142戸



昭和50年8月台風第6号
(乙井橋流失)



平成16年10月台風第23号
(溢水浸水:炭所箇所)

①土器川直轄河川改修事業 事業内容・位置図

- 戦後最大流量を記録した平成16年10月の台風23号と同規模の洪水を流下させるとともに、上下流の治水安全度のバランスが確保されることにより、基準地点祓川橋より下流において1,250m³/sの洪水を安全に流下させることを目的としている。
- 河川整備計画の治水事業の完成後は、土器川の堤防決壊による浸水被害は解消される。

土器川水系河川整備基本方針(H19.8)諸元

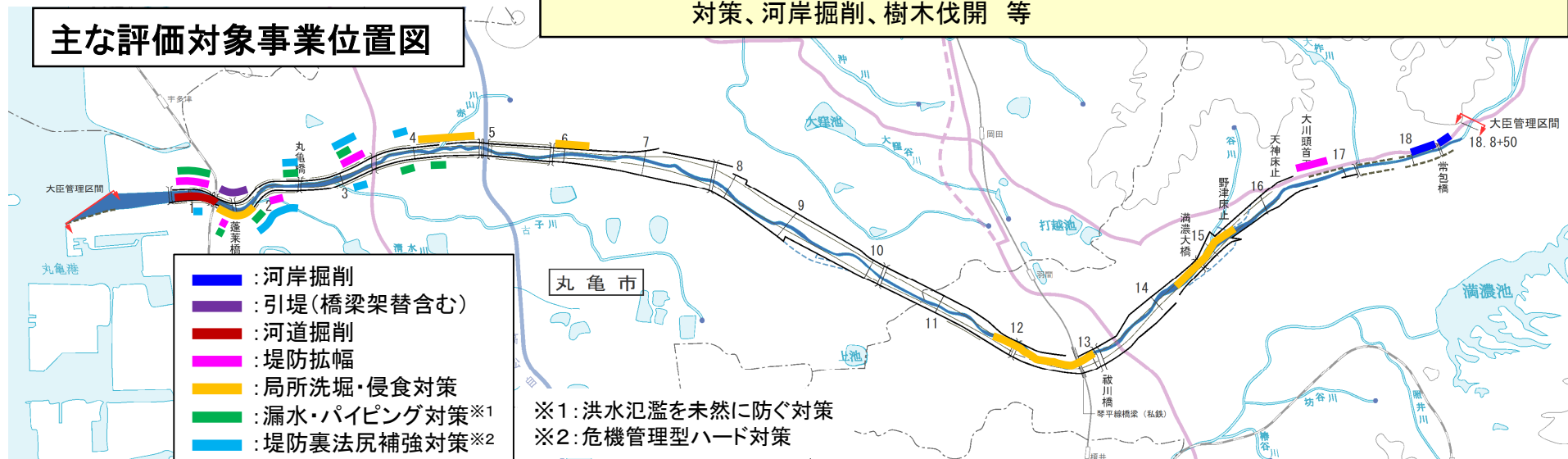
河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 (m ³ /s)	洪水調節施設による調節流量 (m ³ /s)	河道への配分流量 (m ³ /s)
土器川	はらいかわ 祓川橋	1,700	0	1,700

土器川水系河川整備計画(H24.9)諸元

河川名	基準地点	河川整備計画目標流量 (m ³ /s)	洪水調節施設による調節流量 (m ³ /s)	河道への配分流量 (m ³ /s)
土器川	はらいかわ 祓川橋	1,250	0	1,250

- ・事業期間 平成21年度～令和22年度
- ・総事業費 約199億円
- ・主な工種 引堤(橋梁架替含む)、河道掘削、堤防整備(堤防拡幅、堤防強化)、局所洗掘対策、河岸掘削、樹木伐開 等

主な評価対象事業位置図

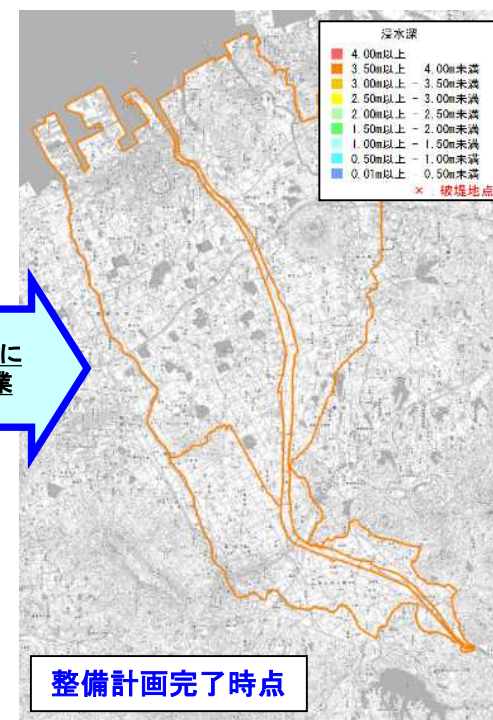
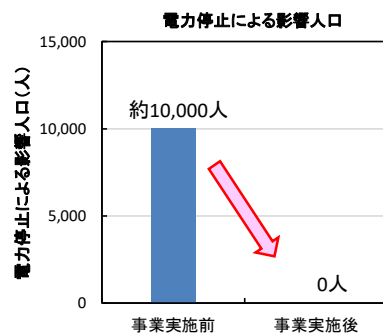
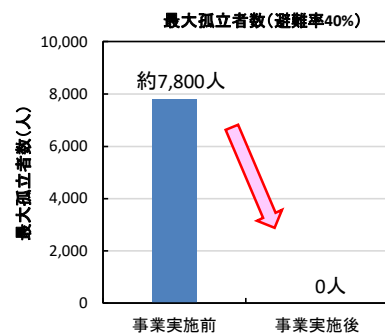


①土器川直轄河川改修事業 事業効果

- 河川整備計画目標規模の洪水に対して、事業実施前には浸水区域内の最大孤立者数(避難率40%)は約7,800人、災害時要援護者数は約7,000人、電力停止による影響人口は約10,000人と想定されるが、事業実施によりこれらが解消される。

河川整備計画規模の洪水

指標		事業実施前	事業実施後
最大孤立者数	避難率80%	約2,600人	0人
	避難率40%	約7,800人	0人
	避難率0%	約13,000人	0人
災害時要援護者数		約7,000人	0人
電力停止影響人口		約10,000人	0人



<対象人口の設定方法> 出典:「水害の被害指標分析の手引き(H25試行版)」

- ・孤立者: 歩行困難な浸水深50cm以上の浸水区域内人口(要援護者は30cm以上の浸水区域内人口)
- ・要援護者: 高齢者(65歳以上人口)、障がい者(65歳以下人口の4%)、乳幼児(7歳未満人口)、妊婦(年平均妊婦数の1/4)
- ・電力停止影響人口: 「住宅の建て方、階数」に対する浸水深別の停電住宅(階層別人口)

再評価実施要領、細目及び対象事業について

学識経験者等から構成される委員会での審議		評価結果の事業評価監視委員会への報告	
審議根拠	報告根拠文	審議根拠	報告根拠文
『国土交通省所管公共事業の再評価実施要領』 第6の6(R6.9.5改定)	河川事業、ダム事業については、河川整備計画策定後、計画内容の点検のために学識経験者等から構成される委員会等が設置されている場合は、事業評価監視委員会に代えて当該委員会で審議を行うものとする。	『河川及びダム事業の再評価実施要領細目』 第6(H22.4.1改定)	実施要領第4の1(4)又は第6の6の規定に基づいて審議が行われた場合には、その結果を事業評価監視委員会に報告するものとする。

【公共事業関係費】

【河川事業】

(直轄事業等)

再評価結果一覧

①土器川直轄河川改修事業

事業名 事業主体	該当 基準	総事業費 (億円)	費用便益分析			貨幣換算が困難な効果等 による評価	再評価の視点 (投資効果等の事業の必要性、事業の進捗の 見込み、コスト縮減等)	対応 方針 (案)	
			貨幣換算した便益:B(億円)	費用:C(億円)					
			便益の内訳及び主な根拠		費用の内訳	B / C			
土器川直轄河川改修事業 四国地方整備局	再々評価	199 (166)※	4,138	【内訳】 被害防止便益：4,136億円 残存価値：1.7億円 【主な根拠】 年平均浸水軽減戸数：667戸 年平均浸水軽減面積：53ha	197	【内訳】 建設費：196億円 維持管理費：1.4億円	21.0	・河川整備計画目標規模の洪水に対して、事業実施前には最大孤立者数が約7,800人、災害時要援護者数は約7,000人、電力停止影響人口が約10,000人と想定されるが、事業実施によりこれらが解消される。 ・事業採択後長期間（5年間）が経過した時点で継続中の事業であるため、再評価を実施 【投資効果等の事業の必要性】 ・土器川国管理区間の河口部～下流部の扇状地は、地盤高が土器川の計画規模の洪水時における水面より低く、堤防決壊時の想定される被害は甚大。 ・資産が集中する河口部は、下流部に比べて川幅が狭く、堤防の断面幅が不足している箇所があり、治水安全度向上の治水対策が必要である。 ・中流部の国管理区間上流端の掘込河道区間は、川幅が著しく狭く、過去に溢水氾濫を繰り返しているため、治水安全度向上の治水対策が必要である。 【事業の進捗の見込み】 ・当面は、河口部の右岸引堤、下流部の堤防拡幅事業を先行したのち、中流部（掘込河道区間）の河岸掘削を行い、全川の治水安全度の向上を図る。 【コスト縮減等】 ・各事業の設計・実施段階で、施工方法の工夫による工法変更、掘削土の有効活用、新技術の採用等を適切に行うことによりコスト縮減に努める。	継続

※()内の事業費は工事諸費を除いた事業費

②吉野川総合水系環境整備事業 事業の概要

区分	No	河川名	事業名		市町等	事業期間	事業内容	事業費(国) (百万円)	評価 手法
新規箇所	①	吉野川	水辺整備	吉野川上流 かわまちづくり	美馬市 三好市 つるぎ町 東みよし町	R8～R17 (新規)	(国)護岸工、管理用道路、樹木伐採 (市町)学習看板、多目的広場	2,868 (2,390)	CVM
再評価	②	吉野川 (早明浦ダム)	水辺整備	早明浦ダム 水辺整備	本山町 土佐町 大川村	S57～R17 (実施中)	(国)周辺環境整備、ダム湖進入坂路、遊歩道、 階段、高水敷保護工、親水護岸 (市町村等)キャンプ場、樹木伐採、栈橋、修景植 栽、環境整備	4,489 (4,113)	CVM
	③	旧吉野川	自然再生	旧吉野川自然再生	鳴門市 藍住町	R2～R17 (実施中)	(国)湿地等の整備	2,821 (2,351)	CVM
完了箇所 評価	④	吉野川	水辺整備	三庄地区 かわまちづくり	東みよし町	H27～R7 (完了)	(国)階段護岸、坂路、親水護岸、管理用道路 (町)芝生公園、陸上競技場、駐車場、多目的広場	738 (484)	CVM
	⑤	吉野川 (早明浦ダム)	水環境	早明浦ダム 水環境整備	本山町 土佐町 大川村	S62～R7 (完了)	(国)植栽工、溪流工、モニタリング調査	3,239 (2,997)	CVM

※事業費の上段：消費税・工事諸費込みの直轄分
(下段)：消費税込み・工事諸費除く直轄分

■事業の目的：

- 【水辺整備】 河川敷およびダム湖周辺の環境を整備することにより、河川管理および防災の用途以外に、憩いの場およびレクリエーションの場としての利用を促進する。
- 【水環境】 ダム周辺における山地の荒廃等により生じる濁水の長期化に対して、土砂の流入抑制を図る。
- 【自然再生】 湿地環境と周辺農地との連続性を再生し、かつて生息していた多様な生物が生息・生育できる場所にする。



②吉野川総合水系環境整備事業 事業の概要

【水辺整備】吉野川上流かわまちづくり〔新規箇所〕 R8～R17

- 整備目的** : 吉野川高水敷の環境を整備することにより、吉野川上流の魅力を更に向上し、イベントを通じて、まちと川との交流人口を増加させ、地域の集客力と滞在型観光を促進する。
- 現状と課題** : 計画対象地域の河川敷は、ウォーキング、散策、サッカー、陸上等の競技やパークゴルフ、環境・地域学習の場などとして多種多様に利用され、また、花火大会やトヨタラリー、健康・防災関連のイベントなど、各種イベントも数多く開催されているが、競技によっては広場面積が足りなかったり、競技者と一体となった観覧スペースがないことなどが課題となっている。
- 事業の必要性** : 水辺に親しみ、川の自然や文化を学ぶ多様な交流拠点の創出と、「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」の取組を充実させ地域活力向上のために、事業を実施する必要がある。
- 整備内容** : (国) 護岸工、管理用道路、樹木伐採
(市町) 学習看板、多目的広場
- 事業費** : 2,918百万円 (このうち、【国】2,868百万円※¹ (工事諸費除く 2,390百万円)、【市町】50百万円※¹)

※¹ : 工事諸費込みの金額

■ 整備箇所位置図



■ 事業の内容

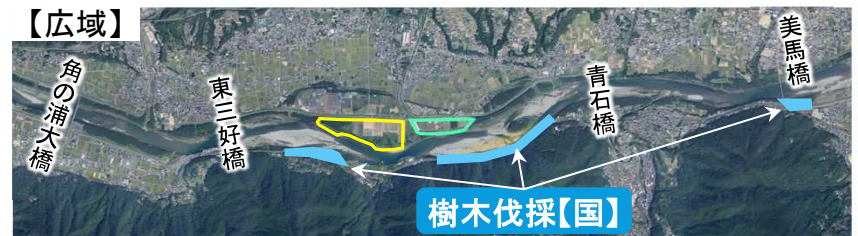


■ 事業により期待される効果

- ・吉野川上流域（整備箇所）の魅力が更に向上する。
- ・イベントを通じて、まちと川との交流人口の増加が期待できる。
- ・更なる地域の集客力向上と滞在型観光促進が期待できる。
- ・「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」に位置することから、周辺の観光資源と併せた有効活用が期待できる。



にし阿波花火大会



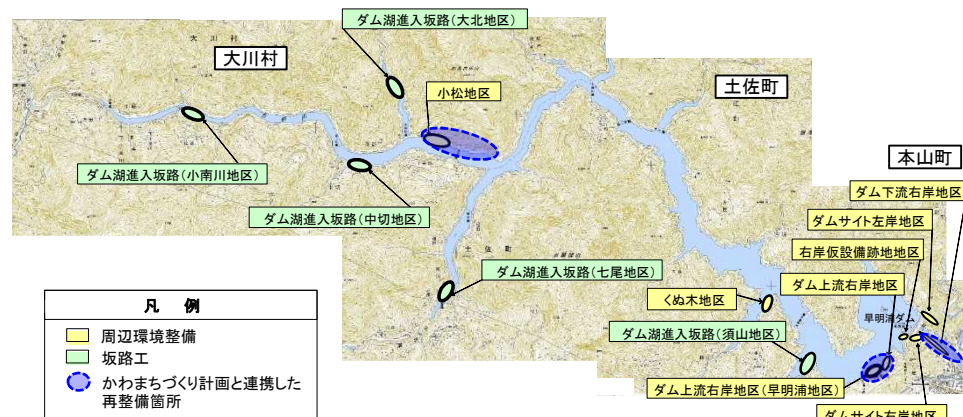
②吉野川総合水系環境整備事業 事業の概要

【水辺整備】早明浦ダム水辺整備〔実施中〕S57～R17

- 整備目的** : 河川敷およびダム湖周辺の環境を整備することにより、河川管理および防災の用途以外に、憩いの場およびレクリエーションの場としての利用を促進する。
- 現状と課題** : 早明浦ダム周辺の高知県嶺北地域では、過疎化・高齢化の進行による地域活力の衰退が見られる。また、近年の環境問題への関心の高まりから「四国のいのち」である早明浦ダムにおいては、ダム周辺の環境保全と利水安全度の向上への必要性が高まるばかりである。そのため、水源地域としての魅力ある生活基盤の創出および都市部への積極的な情報発信と交流事業の推進が重要な課題となっている。
- 整備内容** : 周辺環境整備、ダム湖進入坂路、遊歩道、階段、高水敷保護工、親水護岸
- 事業費** : 4,881百万円（このうち、【国】4,489百万円※1（工事諸費除く 4,113百万円）、【県・町村】392百万円※1）

※1：工事諸費込みの金額

■整備位置図



■整備状況



ダムサイト右岸地区



ダムサイト左岸地区



大川村小松地区

■現在の水辺の利用状況



観光遊覧船



ウォータースポーツ



カヌーによる利用の様子



やまびこカーニバル

■前回再評価（R2年度）以降の事業進捗状況

- 湖岸整備・遊歩道 整備済み（全8地区完了）
- ダム湖進入坂路 整備済み（全5地区完了）
- かわまちづくり計画を活用した再整備 整備済み（全3地区完了）

②吉野川総合水系環境整備事業 事業の概要

【自然再生】旧吉野川自然再生〔実施中〕 R2～R17

- 整備目的** : 旧吉野川で失われつつある湿地環境と周辺農地との連続性を再生し、かつて生息していた多様な生物が生息・生育できる環境にする。
コウノトリの採食に適した湿地を再生し、コウノトリの安定的な生息を支える生態系ネットワークの一拠点とする。
- 現状と課題** : 旧吉野川、今切川では、両川とも河口堰により、河口堰上流は安定した環境下にある。しかし、ワンドや湿地が消失し、樹林化も進行している。また、堤内地の水田やハス田も大きく減少するなど、河川と周辺地との分断が進んでいる。
- 事業の必要性** : かつて生息していた多様な生物が生息・生育できる環境の再生、また、地域の魅力を向上させ地域活性化につなげるためにも、事業を実施する必要がある。
- 整備内容** : 湿地等の整備
- 事業費** : 2,821百万円（このうち、【国】 2,821百万円※1（工事諸費除く 2,351百万円）、【市町村】なし）

※1：工事諸費込みの金額

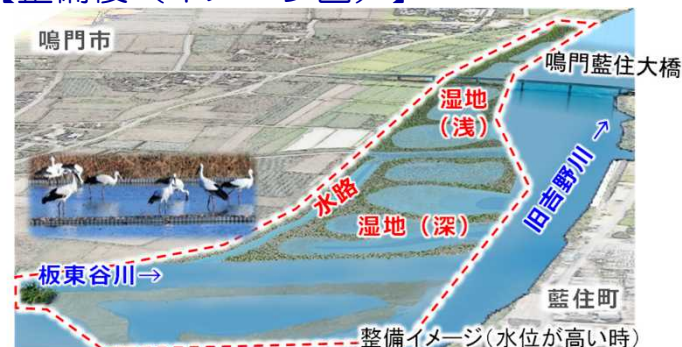
■ 整備位置図



【整備前】



【整備後（イメージ図）】



試験施工箇所に
コウノトリが飛来
（2025年3月）

■ 前回再評価（R2年度）以降の事業進捗状況

- 令和6年度に試験施工を実施。現在モニタリング中
- 令和7年度に計画変更
- 今後も引き続き試験施工を実施予定

②吉野川総合水系環境整備事業 事業の概要

【水辺整備】三庄地区かわまちづくり〔完了箇所〕 H27～R7

- 整備目的 : 吉野川の高水敷等を活かした「かわまちづくり」を観光アクセスとして活用し、観光や地域の発展に期待するもので、地域一帯が連携した空間利用により「にし阿波～剣山・吉野川観光圏整備計画」の観光資源として、水辺利用の促進や観光客の集客に寄与していく。
- 現状と課題 : 竹林により“河川敷や水辺の利用ができない”“景観が悪い”等の問題が生じている。
- 事業の必要性 : 河川敷における良好な水辺空間の形成による水辺利用の促進と、「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」の取組を充実させ地域活力向上のために、事業を実施する必要がある。
- 整備内容 : (国) 階段護岸、坂路、管理用道路(散策路)
(町) 芝生広場、陸上競技場、駐車場、多目的広場
- 事業費 : 891百万円(このうち、【国】738百万円※1(工事諸費除く 484百万円)、【市町】153百万円※1)

※1: 工事諸費込みの金額

■ 整備箇所位置図



■ 整備前後の状況

整備前



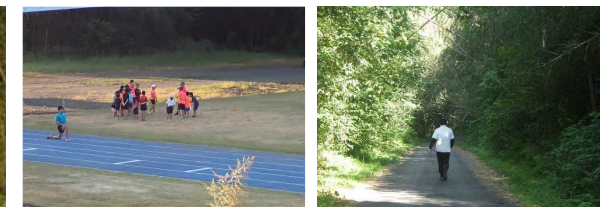
整備されていない竹林

整備後



【効果】

- 竹林の保全により景観がよくなり、また、陸上競技場や散策路の整備により河川敷や水辺を安全・安心に利用できる。
- 駅伝大会の招致などのスポーツイベントの開催を通じて、地域が活性化。



整備後の利用状況

②吉野川総合水系環境整備事業 事業の概要

【水環境】早明浦ダム水環境整備〔完了箇所〕S62～R7

整備目的：ダム周辺における山地の荒廃等により生じる濁水の長期化に対して、土砂の流入抑制を図る。

現状と課題：ダム湖に濁水をもたらす山地崩壊は、森林の荒廃が主な原因となっている。早明浦ダム流域においても例外ではなく、荒廃地やそう生地はダム湖近傍で20%弱の面積を占めている。そのために荒廃地やそう生地の緑化が急務とされている。

整備内容：植栽工（森林整備対策）、溪流工（土砂流入防止対策）、モニタリング調査

事業費：3,239百万円（このうち、【国】3,239百万円※¹（工事諸費除く2,997百万円）、【市町村】なし）

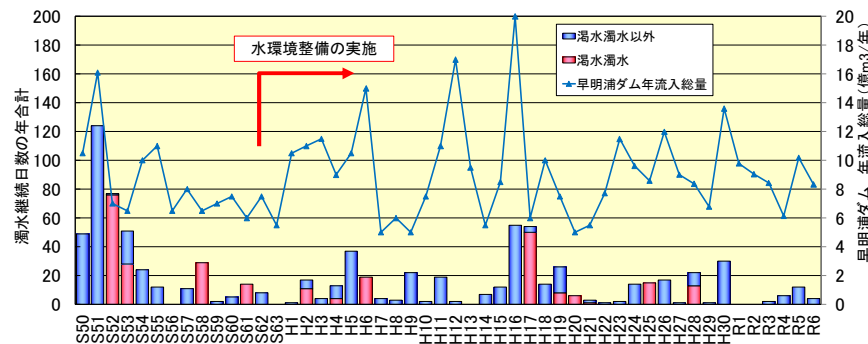
※¹：工事諸費込みの金額

整備位置図



モニタリング調査

早明浦ダムの濁水発生状況(放流濁度10度以上の日数)



溪流工、植生状況の調査及び、濁水対策効果評価を実施。

洪水の発生頻度が高い年（年流入総量が多い年）においても、濁水継続日数は事業実施以前と比較して短くなっていることが確認できる。

整備前後の状況

【植栽工】表土侵食防止、崩壊抑制を図る。ダム周辺の森林に広く植樹することで、山や森が水を貯えておく機能が高まる。

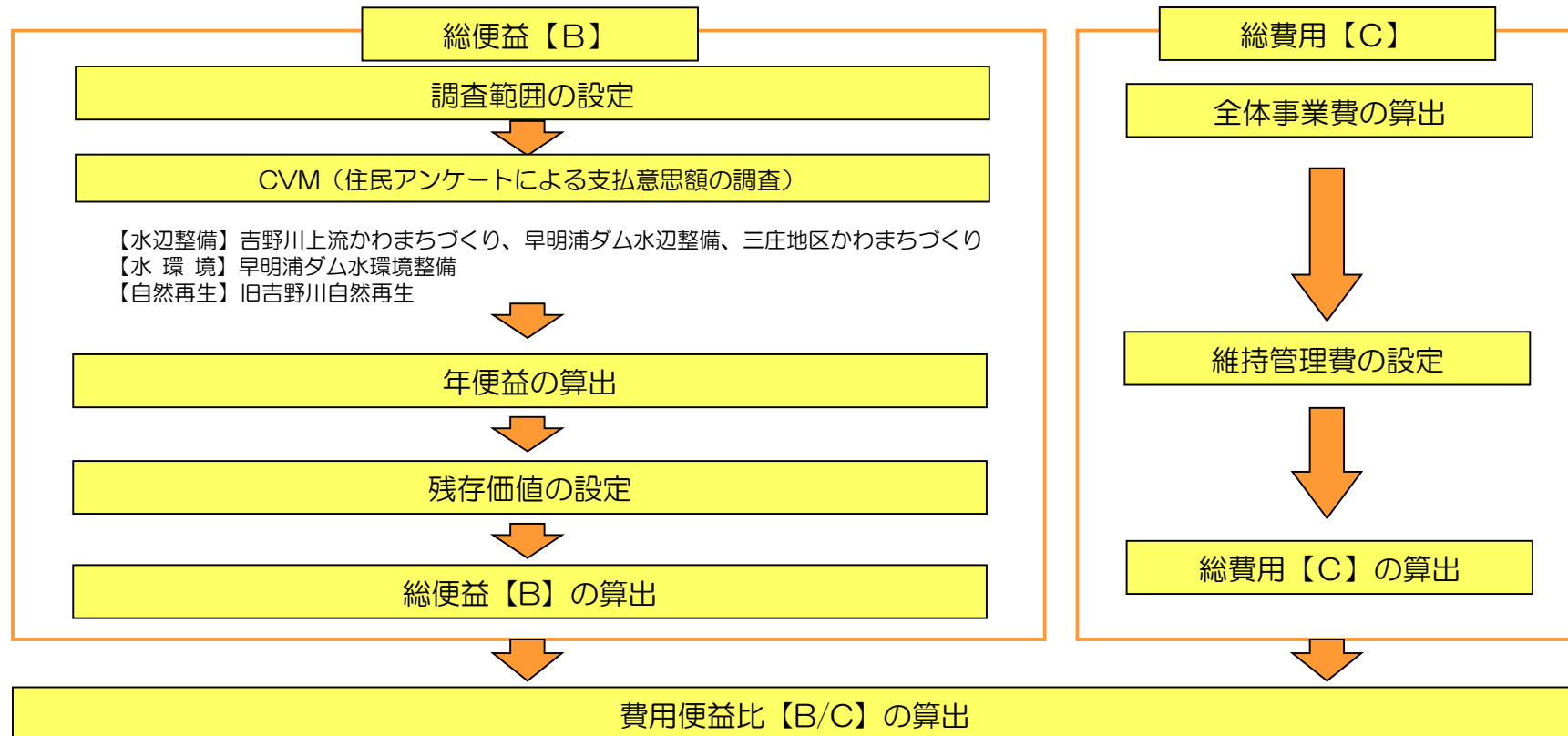


【溪流工】溪流侵食による濁水発生の防止を図る。



②吉野川総合水系環境整備事業 便益の算定

費用便益（B/C）算出の流れ



●費用対効果の分析

【再評価箇所、完了箇所】 **評価基準年度等を更新し、B/Cを算出する。**

○前回評価時から事業目的、事業費は変更がなく、需要量（人口、世帯数）にも大きな変化がない場合、評価基準年度等を変更したB/Cを用いることで、効率的な評価を行う。

○前回評価時から事業目的、事業費の変更または、需要量（人口、世帯数）に大きな変化があった場合、CVMを実施し、B/Cを算出する。

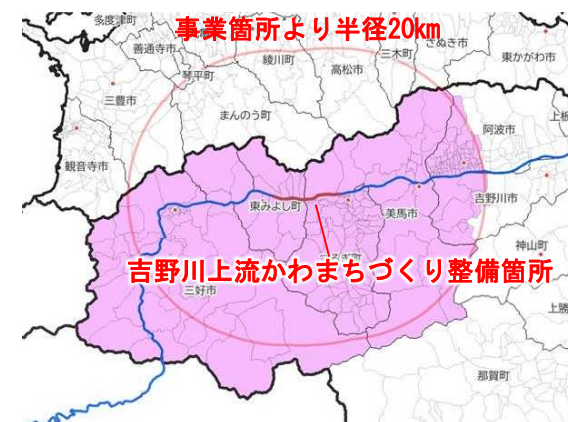
②吉野川総合水系環境整備事業 便益の算定

①【水辺整備】吉野川上流かわまちづくり

【アンケート回収率・有効回答数】 【支払意思額】

	吉野川上流 かわまちづくり
配布数	2,000
回収数	1,035
回収率	51.8%
有効回答数	497
有効回答率	48.0%

	今回評価 (R7)
支払意思額	534円/月/世帯数
受益世帯数	26,038世帯
年便益	167百万円

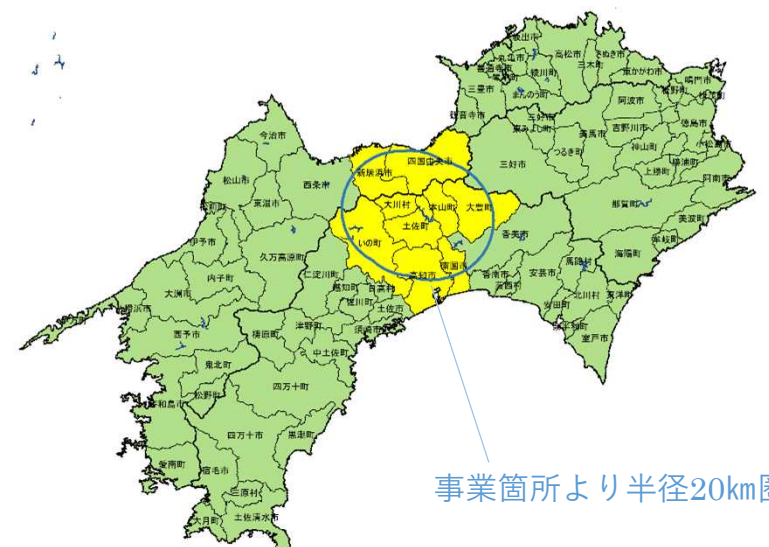


②【水辺整備】早明浦ダム水辺整備

【アンケート回収率・有効回答数】 【支払意思額】

	早明浦ダム 水辺整備
配布数	2,000
回収数	521
回収率	26.1%
有効回答数	370
有効回答率	71.0%

	今回評価 (R7)
支払意思額	567円/月/世帯数
受益世帯数	275,195世帯
年便益	1,872百万円



②吉野川総合水系環境整備事業 便益の算定

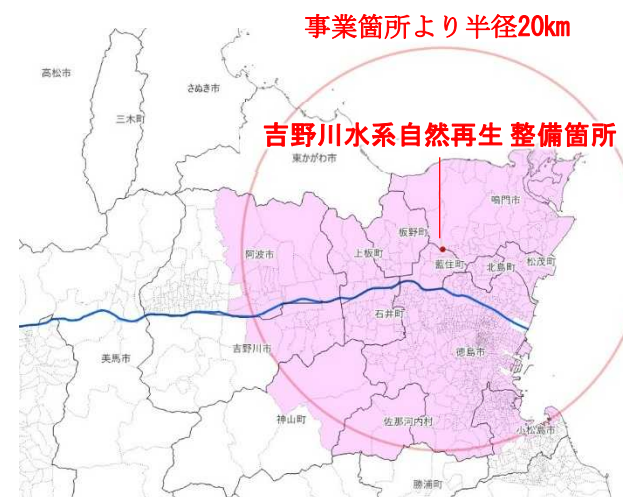
③【自然再生】旧吉野川自然再生

【アンケート回収率・有効回答数】

	旧吉野川 自然再生
配布数	2,000
回収数	1,026
回収率	51.3%
有効回答数	484
有効回答率	47.2%

【支払意思額】

	今回評価 (R7)
支払意思額	346円/月/世帯数
受益世帯数	240,097世帯
年便益	997百万円



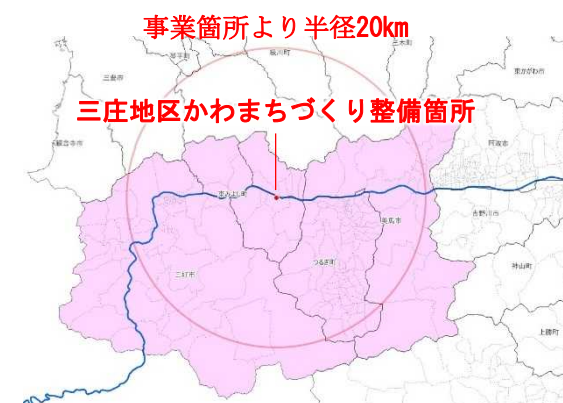
④【水辺整備】三庄地区かわまちづくり

【アンケート回収率・有効回答数】

	三庄地区 かわまちづくり
配布数	2,000
回収数	944
回収率	47.2%
有効回答数	482
有効回答率	51.1%

【支払意思額】

	今回評価 (R7)
支払意思額	391円/月/世帯数
受益世帯数	17,123世帯
年便益	80百万円

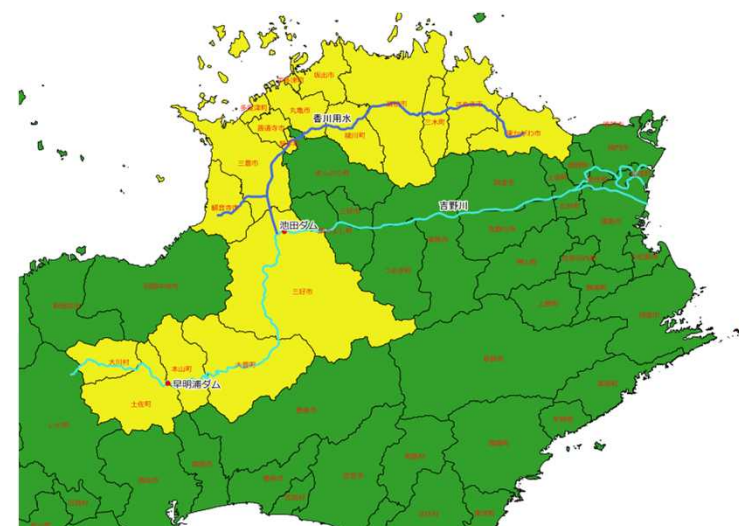


②吉野川総合水系環境整備事業 便益の算定

⑤【水環境】早明浦ダム水環境整備

【アンケート回収率・有効回答数】 【支払意思額】

	早明浦ダム 水環境整備		今回評価 (R7)
配布数	2,100	支払意思額	505円/月/世帯数
回収数	618	受益世帯数	400,826世帯
回収率	29.4%	年便益	2,429百万円
有効回答数	416		
有効回答率	67.3%		



水質改善効果が見込まれる早明浦ダム下流～三好市までの自治体、香川用水受益地のうち上水利用を実施している地域及び、景観改善効果が見込まれるダム湖周辺を便益集計範囲とした。

②吉野川総合水系環境整備事業 便益の算定

水系全体における費用便益比（B/C）の算出

【全体事業】（S57～R17）

- ①吉野川上流かわまちづくり [水辺整備]（新規評価）
- ②早明浦ダム水辺整備 [水辺整備]
- ③旧吉野川自然再生 [自然再生]
- ④三庄地区かわまちづくり [水辺整備]（完了箇所評価）
- ⑤早明浦ダム水環境整備 [水環境]（完了箇所評価）

【残事業】（R8～R17）

- ①吉野川上流かわまちづくり [水辺整備]（新規評価）
- ②早明浦ダム水辺整備 [水辺整備]
- ③旧吉野川自然再生 [自然再生]

吉野川総合水系環境整備事業

金額単位：百万円

項目		再評価（事業全体は完了箇所評価を含む）											
		全体事業						残事業					
			水環境	水辺整備			自然再生		水環境	水辺整備			自然再生
				早明浦ダム 水環境整備	吉野川上流 かわまちづ くり	早明浦ダム 水辺整備				三庄地区 かわまちづ くり	旧吉野川 自然再生	早明浦ダム 水環境整備	
便益（B）		98,152.2	52,199.3	2,433.6	27,201.4	1,734.5	14,583.4	14,710.5		2,433.6	1,560.2		10,716.7
	便益	97,968.4	52,180.2	2,422.2	27,173.4	1,725.0	14,467.6	14,593.8		2,422.2	1,554.3		10,617.3
	残存価値	183.8	19.1	11.4	28.0	9.5	115.8	116.7		11.4	5.9		99.4
費用（C）		27,750.0	11,166.6	2,114.7	11,318.6	1,032.0	2,118.0	4,193.4		2,114.7	647.6		1,431.1
	事業費	26,755.8	10,857.3	1,955.1	11,011.0	969.7	1,962.7	3,871.2		1,955.1	598.2		1,317.9
	維持管理費	994.2	309.3	159.6	307.7	62.3	155.3	322.2		159.6	49.3		113.2
費用便益比 （B/C）		3.5	4.7	1.2	2.4	1.7	6.9	3.5		1.2	2.4		7.5

- ・社会的割引率（4％）を用い現在価値化した値
- ・完了箇所評価は、再評価の内数である
- ・「三庄地区かわまちづくり」と「吉野川上流かわまちづくり」との便益集計範囲が重なる範囲は、便益が重複計上されないように算出している

再評価実施要領、細目及び対象事業について

学識経験者等から構成される委員会での審議		評価結果の事業評価監視委員会への報告	
審議根拠	報告根拠文	審議根拠	報告根拠文
『国土交通省所管公共事業の再評価実施要領』 第6の6 (R6. 9. 5改定)	河川事業、ダム事業については、河川整備計画策定後、計画内容の点検のために学識経験者等から構成される委員会等が設置されている場合は、事業評価監視委員会に代えて当該委員会で審議を行うものとする。	『河川及びダム事業の再評価実施要領細目』 第6 (H22. 4. 1改定)	実施要領第4の1 (4)又は第6の6の規定に基づいて審議が行われた場合には、その結果を事業評価監視委員会に報告するものとする。

【公共事業関係費】
【河川事業】
(直轄事業等)

再評価結果一覧

②吉野川総合水系環境整備事業

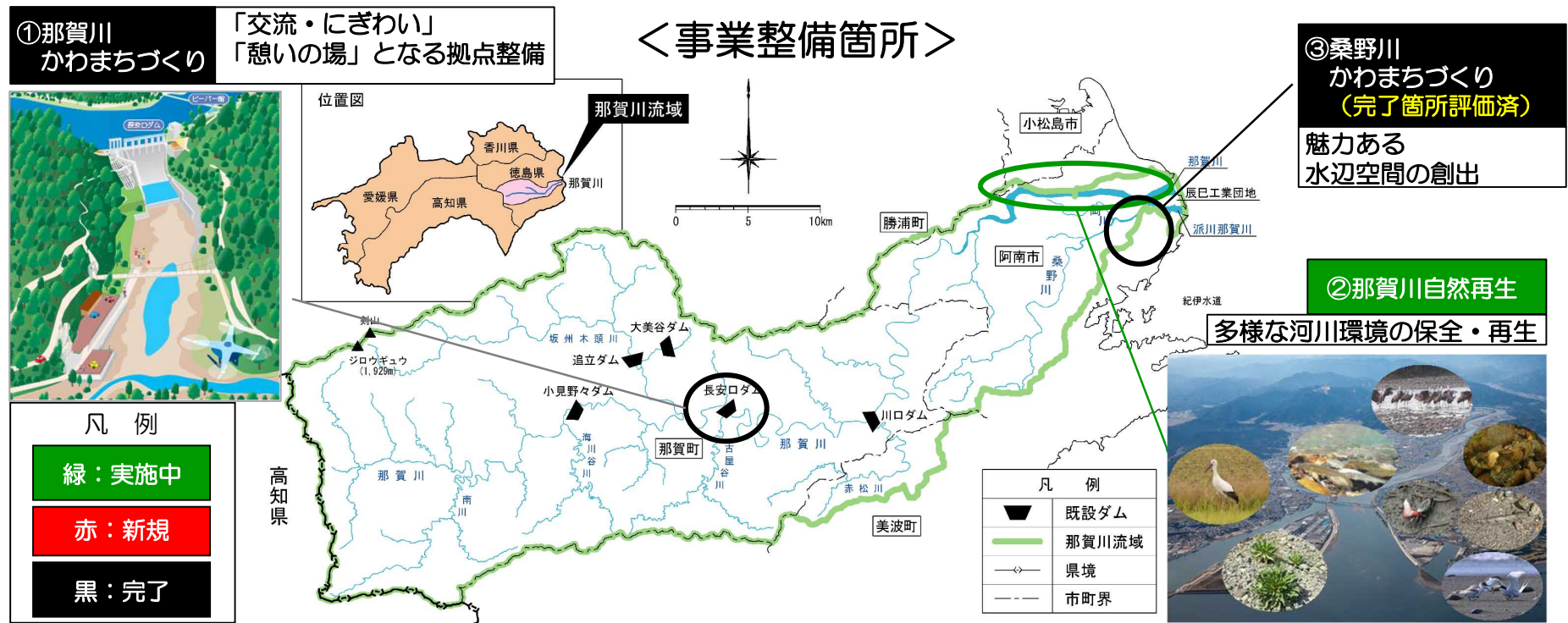
事業名 事業主体	該当 基準	総事業費 (億円)	費用便益分析				貨幣換算が困難な効果等 による評価	再評価の視点 (投資効果等の事業の必要性、事業の進捗の見込み、コスト縮減等)	対応 方針 (案)	
			貨幣換算した便益:B(億円)		費用:C(億円)					B／C
			便益の内訳及び主な根拠		費用の内訳					
吉野川総合水系環境整備事業 四国地方整備局	その他	142 (123)	982	【内訳】 早明浦ダム水環境整備便益： 522億円 吉野川上流かわまちづくり便益： 24億円 早明浦ダム水辺整備便益： 272億円 三庄地区かわまちづくり便益： 17億円 旧吉野川自然再生便益： 146億円 【主な根拠】 早明浦ダム水環境整備： 支払意思額 505円/月/世帯 世帯数 400,826世帯 吉野川上流かわまちづくり： 支払意思額 534円/月/世帯 世帯数 26,038世帯 早明浦ダム水辺整備： 支払意思額 567円/月/世帯 世帯数 275,195世帯 三庄地区かわまちづくり： 支払意思額 391円/月/世帯 世帯数 17,123世帯 旧吉野川自然再生： 支払意思額 346円/月/世帯 世帯数 240,097世帯	278	【内訳】 事業費：268億円 維持管理費：9.9億円	3.5	・吉野川上流かわまちづくりの新規登録、早明浦ダム水辺整備と旧吉野川自然再生の計画変更に伴い、再評価を実施 【投資効果等の事業の必要性】 ・早明浦ダム水環境整備：ダム湖に濁水をもたらす山地崩壊は、森林の荒廃が主な原因となっている。早明浦ダム流域においても例外ではなく、荒廃地やそう生地はダム湖近傍で20%弱の面積を占めている。そのために荒廃地やそう生地の緑化が急務とされている。 ・吉野川上流かわまちづくり：計画対象地域の河川数は、ウォーキング、散策、サッカー、陸上等の競技やパークゴルフ、環境・地域学習の場などとして多種多様に利用され、また、花火大会やトヨタラリー、健康・防災関連のイベントなど、各種イベントも数多く開催されているが、競技によっては広場面積が足りなかったり、競技者と一体となった観覧スペースがないことなどが課題となっている。 ・早明浦ダム水辺整備：早明浦ダム周辺の高知県嶺北地域では、過疎化・高齢化の進行による地域活力の衰退が見られる。また、近年の環境問題への関心の高まりから「四国のいのち」である早明浦ダムにおいては、ダム周辺の環境保全と利水安全度の向上への必要性が高まるばかりである。そのため、水源地域としての魅力ある生活基盤の創出および都市部への積極的な情報発信と交流事業の推進が重要な課題となっている。 ・三庄地区かわまちづくり：竹林により“河川敷や水辺の利用ができない”“景観が悪い”等の問題が生じている。 ・旧吉野川自然再生：旧吉野川、今切川では、両川とも河口堰により、河口堰上流は安定した環境下にある。しかし、ワンドや湿地が消失し、樹林化も進行している。また、堤内地の水田やハス田も大きく減少するなど、河川と周辺地との分断が進んでいる。 【事業の進捗の見込み】 ・吉野川上流かわまちづくり：令和8年度に着手し、令和12年度に工事完了、令和17年度に事業完了予定。 ・早明浦ダム水辺整備：令和12年度まで整備を行い、その後モニタリングを実施し、令和17年度に事業完了予定。 ・旧吉野川自然再生：令和16年度まで箇所毎に施工とモニタリングを実施し、令和17年度に事業完了予定。 【コスト縮減等】 ・地元と協働で維持管理を行うことにより、コスト縮減を図る。 ・自然再生事業地区の一部を湿地等として整備し、地元住民と維持管理について協働する仕組みづくりについて検討し、コストの縮減を図る。	継続	

※()内の事業費は工事諸費を除いた事業費

③那賀川総合水系環境整備事業 事業の概要

区分	No	河川名	事業名		市・町	事業年度	事業内容	事業費（国） （百万円）	評価 手法
完了 箇所 評価	①	那賀川	水辺整備	那賀川 かわまちづくり	那賀町	H30～R7	国：左右岸展望台、ドローン広 場（舗装工、転落防止施設、 管理用道路） 町：付帯施設	173 (125) ※	CVM
実施中	②	那賀川	自然再生	那賀川自然再生	阿南市	R3～R27	国：瀬の整備、干潟等の整備、 レキ河原の整備 等	2,882 (2,422) ※	CVM
完了 箇所 評価済	③	桑野川	水辺整備	桑野川 かわまちづくり	阿南市	H17～H29	国：低水護岸、管理用通路・階 段、高水敷整正 等 市：休憩施設、夜間照明設備 等	654 (550) ※	CVM

※工事諸費を除いた事業費



③那賀川総合水系環境整備事業 事業の概要

【水辺整備】 那賀川かわまちづくり〔完了箇所〕 H30～R7

- 整備目的 : 上下流交流や水辺空間の利用促進、地域の憩いの場として使用できる場を創出する。
- 現状と課題 : 那賀川流域上流から下流まで様々なイベントや施設等の観光資源があるが、長安ロダムが位置する上流域（旧上那賀町）にはイベントを開催できる広場が非常に少ないこともあり、他の地域と比べても河川利用が乏しい現状にあった。
- 事業の必要性 : 那賀町をはじめ、流域の活性化に取り組む、ゆきかう那賀川推進会議等の枠組みと連動することで河川空間の更なる活用が期待されている。
- 整備内容 : (国) 左右岸展望台、ドローン広場（舗装工、転落防止施設、管理用道路）
(町) 付帯施設
- 事業費 : 175百万円（このうち、【国】173百万円※1（工事諸費除く 125百万円）、【町】2百万円※1）

※1：工事諸費込みの金額

左右岸展望台

長安ロダムでは、関係機関と連携したダム見学会を実施しており、説明スペースとして左右岸展望所を活用。また、電子掲示板を設置し、長安ロダムの情報や、防災に関する情報を提供し、防災教育に活用できる施設になっている。



ドローン広場

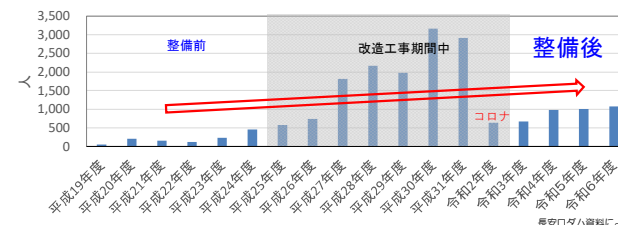
那賀川流域の関係者で実施されているサイクリングイベント（那賀川センチュリーラン）では給水スポットとして活用され、ドローンの訓練会場としても活用されている。また、今秋には、地域の音楽イベント（源流コンサート）の会場としても活用される予定。



整備箇所の利活用状況

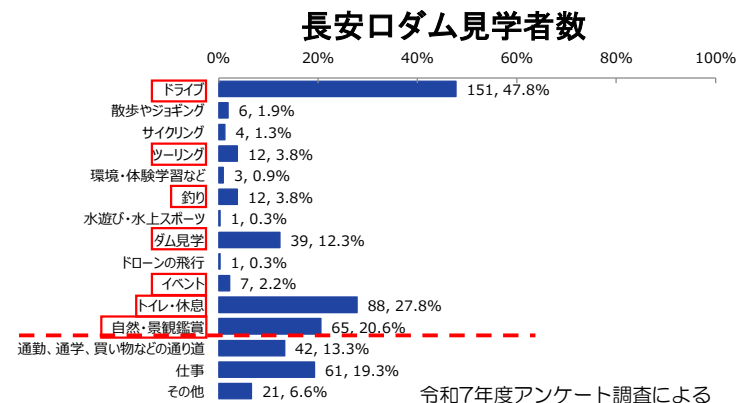
ダム見学者数

長安ロダム見学者数は、那賀川かわまちづくりの整備前と比較して整備後は増加傾向にあり事業の整備による効果と考えられる。



ダム訪問目的

令和7年度に実施したアンケート調査の結果、ダム見学以外の訪問目的として、ドライブ、トイレ・休息、自然・景観鑑賞、ツーリング、釣り、イベントなどがあげられ、整備箇所が利活用されている。



長安ロダム周辺の訪問目的

③那賀川総合水系環境整備事業 事業の概要

【自然再生】那賀川自然再生〔実施中〕 R3～R27

- 整備目的 : 土砂動態の変化等により悪化した那賀川の河川環境を再生し、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の回復させる。
- 現状と課題 : 汽水域の干潟では、トビハゼやシオマネキ等などの魚類・甲殻類の生息場となっているが、水際の単調化や連続性の消失により干潟が減少しており、動植物の生息・生育・繁殖に影響を及ぼしている。下流域では、土砂供給量の減少等による河床低下の進行により、アユの産卵場やナベツルのねぐらとなる浅瀬が減少している。中流域では、樹林化が進行し、レキ河原や細流環境が減少しており、ナベツルがねぐらとして利用できる環境が減少している。
- 事業の必要性 : 那賀川・桑野川の河口域は「阿南市生物多様性ホットスポット」に指定され、「生物多様性あなん戦略」では那賀川自然再生事業の支援が位置付けられているなど、那賀川の自然環境の保全・再生が地域に期待されている。
- 整備内容 : 瀬の整備、干潟等の整備、レキ河原の整備 等
- 事業費 : 2,882百万円（このうち、【国】 2,882百万円※1（工事諸費除く 2,422百万円）、【市町村】なし）

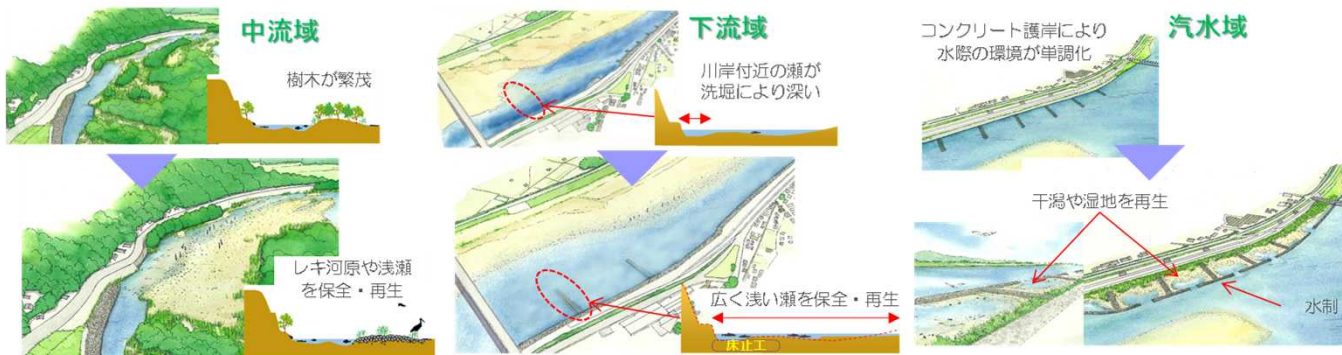
※1：工事諸費込みの金額

自然再生目標及び方向性

土砂動態の変化等により悪化した那賀川の河川環境は、現状のままでは自然の営力による回復は期待できないことから、関連工事等と連携して、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の回復を目指す。

目標①：アユの産卵場となる瀬環境やナベツルのねぐらとなる浅瀬などの保全・再生

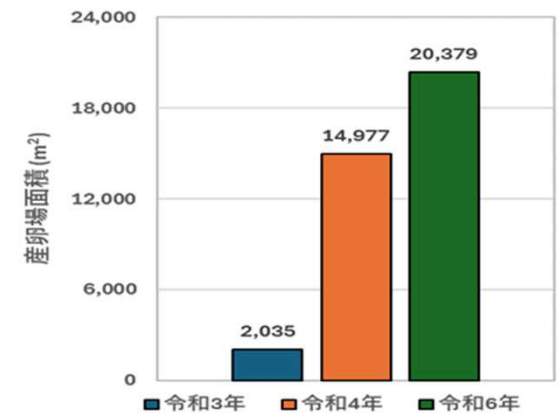
目標②：シオマネキ等が生息する干潟環境やコウノトリ・ツル類の餌場となる湿地環境の保全・再生



整備前後の状況（イメージ図）

事業の進捗状況

令和3年度から古庄箇所に着手し、試験的に浅場づくりを実施しており、モニタリングにより、瀬の状態がアユの産卵場として良好に遷移していることを確認している。



産卵場づくり施工完了後のアユ産卵場の検証結果

モニタリング結果（実施中箇所）

③那賀川総合水系環境整備事業 事業の概要

【水辺整備】桑野川かわまちづくり〔完了箇所評価済〕 H17～H29

- 整備目的 : 中心市街地の賑わいの核となる魅力ある水辺空間の創出を行う。
- 現状と課題 : 桑野川の上中流域では、田園地帯を流れる自然豊かな景観を有しているが、下流域は、阿南市街地を流れる都市河川の景観を有しているものの、堤防等を防護するために設置したコンクリート護岸や根固ブロックにより、動植物の生息・生育環境への影響が懸念されたほか、河川景観が悪化する要因となっていた。
- 事業の必要性 : 桑野川の上中流域では、田園地帯を流れる自然豊かな景観を有しているが、下流域は、阿南市街地を流れる都市河川の景観を有しているものの、堤防等を防護するために設置したコンクリート護岸や根固ブロックにより、動植物の生息・生育環境への影響が懸念されるほか、河川景観が悪化する要因となっていた。
- 整備内容 : (国) 低水護岸、管理用通路・階段、高水敷整正 等
(市) 休憩施設、夜間照明設備 等
- 事業費 : 1,084百万円 (このうち、【国】654百万円※¹ (工事諸費除く 550百万円)、【市】430百万円※¹)

※¹: 工事諸費込みの金額

利活用状況

- 桑野川フラワーロード
地元の活動団体等により、植栽や清掃等のイベント活動が定期的に行われている。
- 浜の浦緑地公園
地域の散策休憩所、花火大会等のイベント会場、LEDを活用したイルミネーションなどが行われている。
阿南市内でSUP活動しているグループが桑野川で浜の浦公園前の河川にて、SUPを使ったクリーンリバー（河川清掃）や中学生を対象にSUP体験を行っている。
- 井関健康運動公園
散策道としての利用のほか、距離が把握できる工夫が施され、短距離走や中距離走の練習など、地元高校生も活用している。



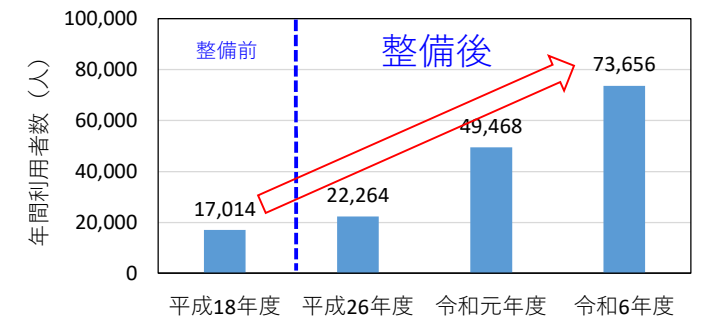
地元団体による植栽活動



阿南夏祭り



ランニング等での利用



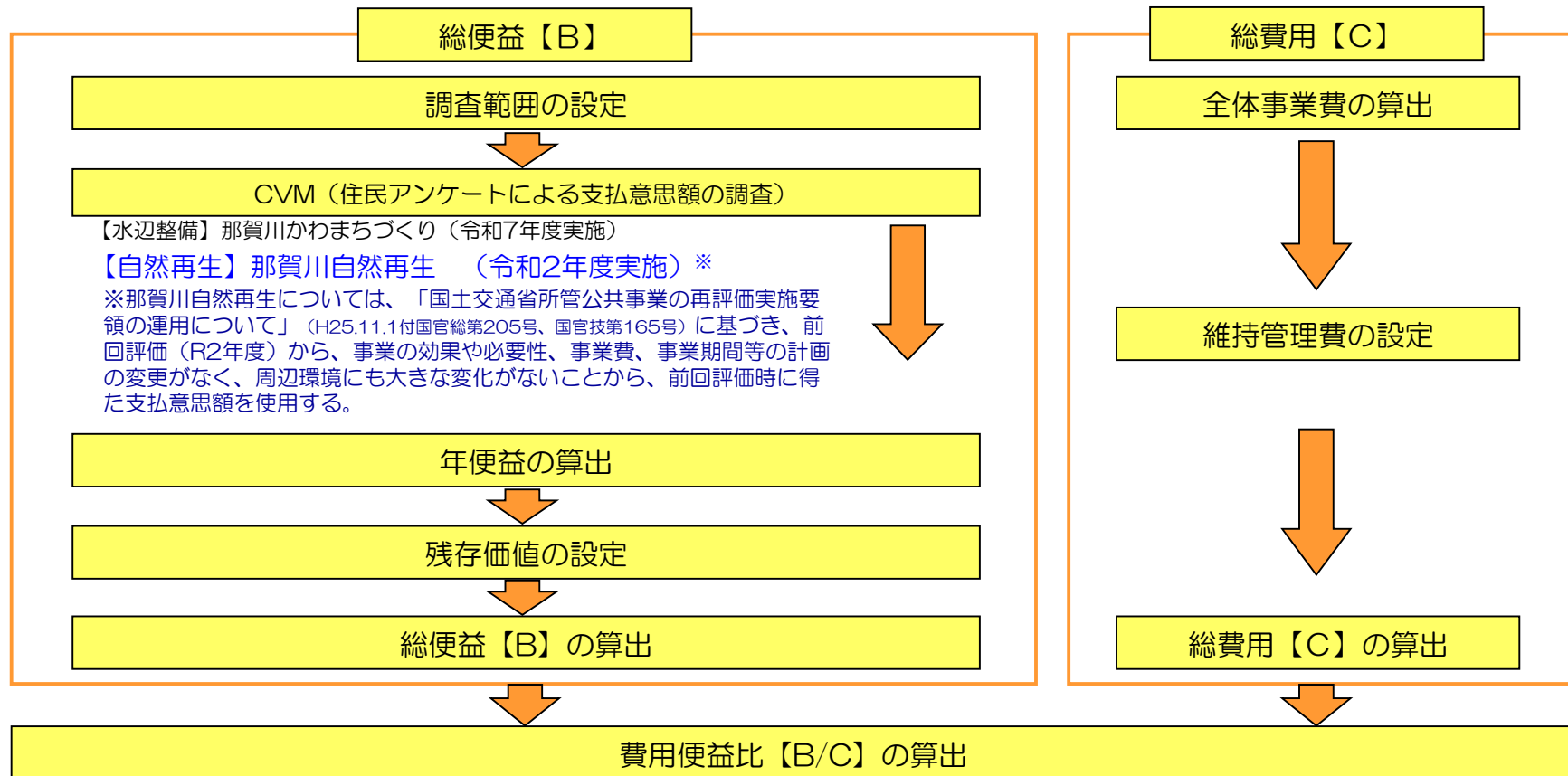
出典：河川空間利用実態調査

整備箇所の利活用状況

浜の浦緑地公園 年間利用者数 24

③那賀川総合水系環境整備事業 便益の算定

費用便益（B/C）算出の流れ



●費用対効果の分析

【那賀川総合水系環境整備事業】水辺整備事業＋自然再生事業によりB/Cを算出する。

【水辺整備事業】 CVMにより評価

【自然再生事業】 CVMにより評価

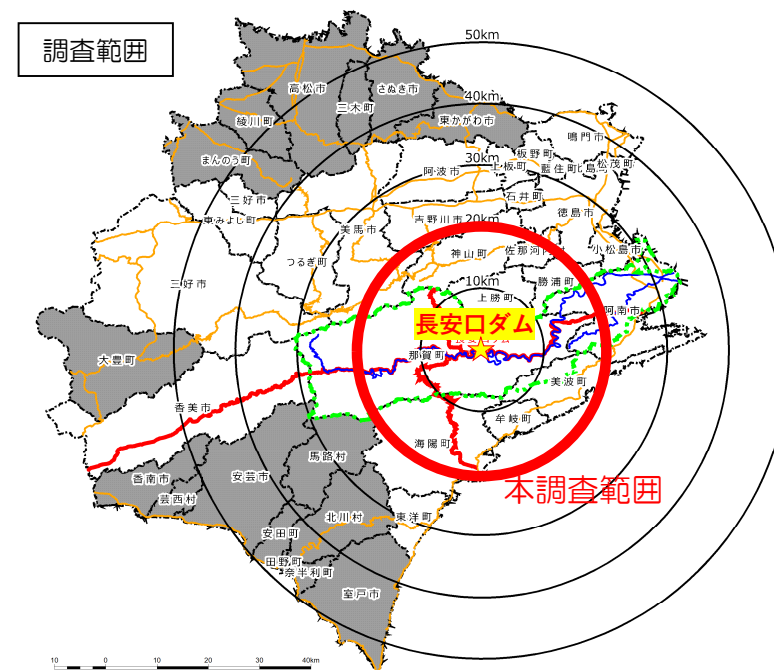
③那賀川総合水系環境整備事業 便益の算定

①那賀川かわまちづくり〔完了箇所〕

【アンケート回収率・有効回答数】 【支払意思額】

	那賀川 かわまちづくり
配布数	2,000
回収数	610
回収率	30.5%
有効回答数	255
有効回答率	42.8%

	今回評価 (R7)
支払意思額	347 円/月/世帯数
受益世帯数	12,379世帯 (R2国勢調査)
年便益	51.5百万円



③那賀川総合水系環境整備事業 便益の算定

費用対効果分析結果（全体総括表）

金額単位：百万円

項 目	再 評 価								
	全体事業					残事業			
		水環境	水辺整備		自然再生		水環境	水辺整備	自然再生
			那賀川 かわまちづくり	桑野川 かわまちづくり					
便益[B]	10,434	—	1,108	5,174	4,152	4,151	—	—	4,151
便益	10,413	—	1,106	5,165	4,142	4,142	—	—	4,142
残存価値	21	—	1	10	10	9	—	—	9
費用[C]	4,458	—	160	2,458	1,840	1,608	—	—	1,608
事業費	4,174	—	156	2,356	1,663	1,431	—	—	1,431
維持管理費	284	—	4	103	177	177	—	—	177
費用便益比 [B/C] () 内は事業費に工事 諸費を含めた場合を記載	2.3 (2.0)	—	6.9 (4.9)	2.1 (1.9)	2.3 (1.9)	2.6 (2.2)	—	—	2.6 (2.2)

- 社会的割引率（4%）を用い現在価値化した値
- 四捨五入のため、合計等があわない箇所がある
- 事業全体は、完了箇所（桑野川かわまちづくり）を含む

再評価実施要領、細目及び対象事業について

学識経験者等から構成される委員会での審議		評価結果の事業評価監視委員会への報告	
審議根拠	報告根拠文	審議根拠	報告根拠文
『国土交通省所管公共事業の再評価実施要領』 第6の6 (R6. 9. 5改定)	河川事業、ダム事業については、河川整備計画策定後、計画内容の点検のために学識経験者等から構成される委員会等が設置されている場合は、事業評価監視委員会に代えて当該委員会での審議を行うものとする。	『河川及びダム事業の再評価実施要領細目』 第6 (H22. 4. 1改定)	実施要領第4の1 (4)又は第6の6の規定に基づいて審議が行われた場合には、その結果を事業評価監視委員会に報告するものとする。

【公共事業関係費】

【河川事業】

(直轄事業等)

再評価結果一覧

③那賀川総合水系環境整備事業

事業名 事業主体	該当 基準	総事業費 (億円)	費用便益分析				貨幣換算が困難な効果等 による評価	再評価の視点 (投資効果等の事業の必要性、事業の進捗の見込み、コスト削減等)	対応方針 (案)	
			貨幣換算した便益:B(億円)		費用:C(億円)					B／C
			便益の内訳及び主な根拠		費用の内訳					
那賀川総合水系環境整備事業 四国地方整備局	再々評価	37 (31)※	104	【内訳】 便益：104億円 残存価値：0.2億円 【主な根拠】 ・桑野川かわまちづくり事業（CVM）支払い意思額：340円/月/世帯、受益世帯数：33,284世帯 ・那賀川かわまちづくり事業（CVM）支払い意思額：347円/月/世帯、受益世帯数：12,379世帯 ・那賀川自然再生事業（CVM）支払い意思額：496円/月/世帯、受益世帯数：52,334世帯	45	【内訳】 事業費：42億円 維持管理費：3億円	2.3	【水辺整備】那賀川かわまちづくり事業 ・長安口ダム見学者数は、那賀川かわまちづくりの整備後は増加傾向。 ・周辺住民では、那賀川かわまちづくり整備後のR4年度以降に、2人に1人が長安口ダムを訪問。 【水辺整備】桑野川かわまちづくり事業 ・地元の活動団体等により、植栽や清掃等のイベント活動が定期的に開催。 ・地域の散策休憩所、花火大会等のイベント会場、LEDを活用したイルミネーションなどの実施。 ・散策道としての利用のほか、短距離走や中距離走の練習など、地元高校生も活用。 【自然再生】那賀川自然再生事業 ・令和3年度から古庄箇所に着手し、試験的に浅場づくりを実施。 ・瀬の状態がアユの産卵場として良好に遷移していることを確認。 ・前回再評価から5年が経過したため再評価を実施 【投資効果等の事業の必要性】 ・那賀川かわまちづくり（完了） 費用便益比 6.9 ゆきかう那賀川推進会議等の枠組みと連動することで河川空間の更なる活用が期待されている。 ・那賀川自然再生（実施中） 費用便益比 2.3 那賀川の自然環境の保全・再生が地域に期待されている。 ・桑野川かわまちづくり（完了済） 費用便益比 2.1 事業の実施による利用者数の増加も確認されており中心市街地に近い魅力ある水辺空間となっている。 【事業の進捗の見込み】 ・那賀川自然再生（実施中） 令和3年度から事業を実施。令和27年度に完了予定。 【コスト削減等】 ・那賀川自然再生（実施中） 関連工事と連携した自然再生を行う等によって、コスト削減を図る。	継続	

※（ ）内の事業費は工事諸費を除いた事業費

地方公共団体から頂いたご意見

各学識者会議における事業再評価の審議にあたり、各地方公共団体からの意見として、県知事からご意見をいただいているのでご紹介させていただきます。

①土器川直轄河川改修事業

地方公共団体からの意見（香川県知事）

「対応方針(原案)」案の事業継続については異議ありません。
事業の実施に際してはその内容を事前に説明いただくとともに、事業の計画的な推進とより一層のコスト縮減に努めていただくようお願いします。

地方公共団体から頂いたご意見

各学識者会議における事業再評価の審議にあたり、各地方公共団体からの意見として、県知事からご意見をいただいているのでご紹介させていただきます。

②吉野川総合水系環境整備事業

地方公共団体からの意見（徳島県知事）

吉野川総合水系環境整備事業を「継続」とするという「対応方針（原案）」案については、異議ありません。

なお、事業を進めるにあたっては、それぞれの段階において、地元住民や関係団体に事業内容を十分に説明いただくとともに、将来生じる可能性のあるコストの上昇に対しては、より一層のコスト縮減に努めながら早期完成をお願いします。

地方公共団体からの意見（高知県知事）

吉野川総合水系環境整備事業の事業継続に異議はありません。早明浦ダム建設の歴史等を踏まえ、水源地域である嶺北地域での交流人口の増大による地域活性化のため、より一層の事業推進をお願いします。

地方公共団体から頂いたご意見

各学識者会議における事業再評価の審議にあたり、各地方公共団体からの意見として、県知事からご意見をいただいているのでご紹介させていただきます。

③那賀川総合水系環境整備事業

地方公共団体からの意見（徳島県知事）

那賀川総合水系環境整備事業を「継続」とするという「対応方針（原案）」案については、異議ありません。

なお、事業を進めるにあたっては、それぞれの段階において、地元住民や関係団体に事業内容を十分に説明いただくとともに、計画工期が長期に及ぶことから、コスト縮減に努めながら、着実な事業の推進をお願いします。